

令和6年度 教育課程特例校実施状況 評価報告書 素和美國際学院 素和美小学校

素和美小学校は、文部科学省から「教育課程特例校」の指定を受け、すべての教育活動を英語で行うイマージョン教育を実践している、全国でも数少ない学校です。子どもたちが自然に英語を身につけながら、のびのびと学習できる環境づくりに取り組んでいます。ここに、本年度の取り組みと成果をご報告いたします。

英語イマージョン教育の取り組み

【日常的に英語があふれる学校生活】

取り組み 内容	実施状況と成果	評価	学校関係者からのコメント
毎日の 英語環境	◆朝のミーティングから帰りの会まで、英語で実施 ◆子どもたちは自然に英語で考え、表現する力が身についています ◆上級生が下級生に英語で優しく教える姿が日常的に見られます	A	「子どもが家でも自然に英語を話すようになりました」「英語への抵抗感が全くないことに驚いています」(保護者より)
体験を通 じた学び	◆理科の実験、図工の制作、体育活動も英語で実施 ◆「Learning by Doing(実践による学習)」を大切にしています ◆英語を「勉強」ではなく「コミュニケーションツール」として活用	A	「教科書だけでは得られない、生きた英語力が身についている」(教育関係者より)
ICTを活用した国 際交流	◆ICT 機器を使った調べ学習やプレゼンテーション ◆インターネットによる国際的な自然・歴史の調査発表	B	「グローバルな視野が自然に育っている」(学校評議員より)

備考: 評価 A(大変良好) B(良好) C(概ね良好)

探究的な学びの実践

【子どもが主役の学習活動】

取り組み内容	実施状況と成果	評価	学校関係者からのコメント
探究型 学習	◆子どもたちの「なぜ?」「どうして?」から始まる探究活動 ◆環境、地域の歴史、科学実験など、興味に応じテーマ設定 ◆英語でリサーチし、まとめ、発表する一連の流れが定着	A	「子どもの好奇心と主体性が素晴らしい」(見学者より)
異学年 協働 学習	◆1～6年生と一緒に学ぶ機会を多く設定 ◆お互いに教え合い、助け合う文化が根付いています ◆年齢を超えた友情と信頼関係が育まれています	A	「縦のつながりが自然にできている理想的な環境」(保護者より)
成果 発表の 充実	◆学期ごとのプレゼンテーション大会を実施 ◆保護者や地域の方々を招いての発表会も開催 ◆堂々と英語で発表する子どもたちの姿に感動の声多数	B	「子どもの成長が目に見えてわかる」 「自信に満ちた発表に感激」(保護者より)

備考: 評価 A(大変良好) B(良好) C(概ね良好)

今年度の特別な取り組み

さまざまなチャレンジと成果

1. 英語劇・ミュージカルの上演

- 子どもたちが脚本から演出まですべて英語で創作
- 保護者の皆様から「プロ顔負けの完成度」と大好評

2. 地域との交流活動

- 地域の方々に英語を教える「子ども先生」プログラムを実施
- 各種イベントの英語によるコミュニケーション

3. 豊富な自然環境を活用した調査

- 自然環境について英語で調査・議論・行動
- 学校周辺の森や谷川の調査活動を実施



子どもたちの成長(数値で見る成果)

- ・ 英語でのコミュニケーション: 全児童が日常会話を英語で実施可能
- ・ プレゼンテーション能力: 100%の児童が英語での発表を経験
- ・ 国際理解: 自他の国の文化や自然、環境等について英語で説明できる



保護者・関係者の声

「英語が特別なものではなく、自然なコミュニケーションツールとして身につけているのが素晴らしい」(小3 保護者)

「子どもが自分で考え、調べ、発表する力が驚くほど成長した」(小5 保護者)

「英語力だけでなく、思考力、表現力、協働する力など、これからの時代に必要な力が育っている」(教育関係者)

「素和美小学校の取り組みは、日本の英語教育のモデルケースになる」(大学教授)



今後の展望

令和7年度に向けて、さらに充実した教育活動を計画しています:

- ・ 国際交流の拡大: 世界の学校との交流機会の創出
- ・ 対外的なイベント活動の強化
- ・ STEAM教育の強化: 科学・技術・工学・芸術・数学を英語で統合的に学習

おわりに

素和美小学校は、子どもたちが英語を自然に身につけながら、自ら考え、学び、成長できる環境を提供し続けます。すべての子どもたちが輝ける学校として、今後も教育活動の充実に努めてまいります。

ぜひ一度、子どもたちの生き生きとした学習の様子をご覧にいらしてください。学校見学は随時受け付けております。

お問い合わせ

- 電話: 0555-72-3031
 - メール: suomi.ps@gmail.com
-

令和6年度 教育課程特例校実施状況(自己評価・学校関係者評価)に係る評価事項

文部科学省から「教育課程特例校」の指定を受け、素和美小学校では全ての教育活動(学校生活全般・教科学習)を英語で行うイマージョン教育を実践しています。ここに令和6年度の自己評価結果を公表し、さらに充実するよう取り組んでまいります。

	項目	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
英語で行う特色ある学び	英語環境の充実	1.朝のミーティングや日常会話での英語使用を継続する。	B	1.年度前半は順調に英語環境が維持されていたが、8月以降の教員体制の変更により、新たな指導体制の構築が必要となった。児童は環境の変化にも適応し、英語使用を継続できた。	B	教員体制の変更という困難な状況にも関わらず、児童の学習環境を維持できたことは評価できる。新体制での基盤づくりが進んでおり、今後の発展に期待する。
		2.ブラックバイnderによる学習記録の継続実施を図る。		2.ブラックバイnderの記録は児童に定着しており、教員の交代後も上級生が中心となって活動を継続することができた。		
		3.教室掲示物や学習環境の英語化を維持する。		3.既存の掲示物を活用しながら、新体制でも英語環境の維持に努めた。児童の自主的な取り組みが見られた。		
		4.英語図書の活用と読書活動を推進する。		4.英語図書の活用は児童主導で継続され、読書習慣は維持できた。		
		5.ICT機器を用いた英語学習を継続する。		5.ICT活用については基本的な活動を中心に実施し、児童の学習に支障が出ないよう配慮した。		
		6.教員間の協力体制を再構築する。		6.新たに着任した教員への引き継ぎと研修を実施し、年度後半には安定した指導体制を整えることができた。		

英語による探求的な学び	1.児童の興味に基づく学習活動を英語で実施する。 2.教科学習における英語活用を維持する。 3.個々の児童への支援体制を継続する。 4.新体制における教員研修を実施する。	1,2.年度前半に計画していた探求的学習は、教員体制の変更により計画の見直しが必要となった。しかし、児童の学習意欲は維持され、基礎的な教科学習を英語で継続することができた。シンプルな活動を中心に、着実な学習を進めることを重視した。 3.個別支援については、新旧教員の引き継ぎを丁寧に行い、児童一人ひとりの学習状況を把握しながら対応した。児童同士の学び合いも効果的に機能した。 4.新たに着任した教員に対して、イマージョン教育の理念と実践方法について研修を実施した。既存の教員との協働により、指導方法の共有を図った。	予期せぬ教員体制の変更に直面しながらも、教育活動を継続できたことは学校の底力を示している。新体制での再出発を着実に進めており、次年度への基盤整備として意義がある。
-------------	---	--	--

C

C

備考 A (十分に効果があった) B (成果があった) C (少し成果があった) D (成果がなかった)